

市町村名	宮古島市						
平成26年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-④	伊良部地区津波避難施設整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(4)-イ	
担当部署名	総務部 防災危機管理班	事業実施(予定)年度	平成25~26年度	沖縄振興基本方針該当箇所	災害に強い県土づくりと防災体制の強化		
					Ⅲ-10-(2)		
事業内容	海沿いに面した海拔の低い伊良部南区に津波避難施設を整備し、地域住民の災害時における避難場所を確保する。						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	26年度(繰越)	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	15,000	88,988	—		
		(b)予算現額	15,000	81,137	—		
		(c)増減額(b-a)	0	▲7,851	—		
		(d)繰越額	—	—	51,233		
		A.計(b+d)	15,000	81,137	51,233		
	B.執行済額		6,642	29,904	47,234		
	うち交付金充当額		5,313	23,923	37,787		
	次年度繰越額		—	51,233	—		
	執行率(%) (B/A)		44.3%	36.9%	92.2%		
予算の状況の説明		平成26年度において施設整備を完了する予定だったが、資材価格が高騰したことにより、設計の見直しに不測の日数を要した為、事業の着手が大幅に遅れ年度内完了が困難となり、次年度へ繰り越した。不用は入札算によるもので、執行率も95%となることから、予算規模としては適切であった。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	伊良部地区津波避難施設(RC造3階建て)の建築工事の実施	目 標	(実施設計)	(建築工事実施)	()	()	
		実 績	実施設計	建築工事実施			
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	・平成25年度に実施設計を実施した。平成26年度建築工事、電気・機械工事を実施し、鉄筋コンクリート造3階建の「伊良部地区津波避難施設」が完成した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	伊良部地区津波避難施設の整備完了	目 標	()	避難施設の整備完了			()
		実 績		避難施設の整備完了			
		目 標	()	()			()
		実 績					
	進捗状況説明	・平成27年8月に「伊良部地区津波避難施設」が完成し、収容人数約280人の避難場所が確保された。平成27年10月には近隣住民を対象に当該施設の利用方法や津波に関する講習会を実施した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・伊良部南地区は海拔が低く、防災施設の整備が急務であった。台風時に利用できる避難場所としては他施設があるため、津波避難施設として特化型の避難施設を整備した。	・津波に対して速やかな避難が出来るよう、津波や地震に関する備えや整備施設の活用方法等を周知する必要がある。
今後の取り組み方針		
・海拔の低い伊良部南地区に住民の生命を守る津波避難施設は完成したが、伊良部地区津波避難施設への速やかな避難が出来るよう、防災に関する講習会や訓練を実施し地域住民の防災意識の向上を図る。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
宮古島市 79,471千円 工事請負費 77,096千円 (有)大政建設 72,522千円 (同)白金住設 4,574千円 委託料 2,375千円 勝設計事務所 2,375千円 (伊良部地区津波避難施設整備事業(建築)) (伊良部地区津波避難施設整備事業(電気・機械)) (伊良部地区津波避難施設整備事業 監理業務委託)				
		総事業費	交付対象事業費	交付金充当額
		79,471	77,138	61,710
				市町村負担金
				15,428
				交付対象外経費
				2,333
資金の流 れ、費 目・使 途の 点検・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事契約、委託契約とも指名競争入札にて選定しており、妥当であったと考える。 ○予算規模は、事業内容から鑑みて適正な規模であったと考える。 ○費目、使途については事業の執行時において検査、確認をしており適正であったと判断した。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。		
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		宮古島市					
平成26年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-④		与那覇湾環境総合整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	3章-1-(1)-イ	
担当部課名	生活環境部 環境衛生課		事業実施(予定)年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	陸地・水辺環境の保全 Ⅲ-1-(1)	
事業内容	ラムサールに登録された与那覇湾の利活用についての総合的な整備計画を策定し、貴重な自然環境の有効利用を図る。						
実施方法	☒ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額	24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	26年度(繰越)
		(b) 予算現額	1,000	—	5,000	49,489	—
		(c) 増減額(b-a)	1,000	—	15,000	47,354	—
		(d) 繰越額	0	—	10,000	▲ 2,135	—
		A. 計(b+d)	—	1,000	—	—	38,340
	B. 執行済額		1,000	1,000	15,000	47,354	38,340
		うち交付金充当額	0	966	13,528	8,423	38,340
		次年度繰越額	0	772	10,822	6,738	30,672
	執行率(%) (B/A)	1,000	—	—	38,340	0	
	予算の状況の説明	0.0%	96.6%	90.2%	17.8%	100%	
与那覇湾岩礁破碎及び鳥獣保護区図面作成業務、与那覇湾環境総合整備事業実施計画資料作成業務、与那覇湾環境総合整備事業調査測量設計業務、与那覇湾環境総合整備工事の実施。調査測量設計を実施するにあたり、住民等との事前調整に不測の日数を要し、遅れが生じた。調査測量設計を踏まえ実施予定であった湾奥部の作渚工事についての当初の計画の変更を余儀なくされ、野鳥飛来期間を工期内に含むこととなった。環境省と許認可の協議を行った結果、野鳥飛来期間が終了する1月から4月初旬まで工事を実施出来ない事となり、27年度へ繰り越すことになったが、工期の変更のみで、工事費の変更はなく、予算は適正に執行された。							
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度			
	与那覇湾流入河川改良工事の実施	目 標	(流入河川改良工事の実施)	()	()	()	
		実 績	流入河川改良工事の実施				
	与那覇湾底質改善作渚工事の実施	目 標	(底質改善作渚工事の実施)	()	()	()	
実 績		底質改善作渚工事の実施					
達成状況説明	住民等との事前調整に不測の日数を要し測量設計に遅れが生じたこと、野鳥飛来期間について工事を実施できなかったことにより、工期に遅れが生じ繰越事業となったが、与那覇湾流入河川改良工事(石積75㎡、散策道31㎡、湧水部1式、作渚471㎡)を適切に実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度		目標値(年度)	
	【水質改善(湾内6ポイントの調査地点)】 (環境省:生活環境の保全に関する環境基準) COD:0.5mg/L超過(1ポイント)→2mg/L以下 全窒素平均0.11mg/L超過(5ポイント)→0.2mg/L以下 全りん:0.001mg/L超過(1ポイント)→0.02mg/L以下	目 標	()	(COD2mg/L以下 全窒素平均0.2mg/L以下 全りん0.002mg/L以下)	()	()	
		実 績		(全窒素平均0.4mg/L 全りん0.03mg/L)			
	【底質改善(湾内6ポイントの調査地点)】 (日本水産資源保護協会:水産用水基準) SPSSランク:平均1.6kg/m3超過(5ポイント) 6kg/m3以下	目 標	()	(平均7.6→6以下)	()	()	
		実 績		(平均7.6→7)			
	進捗状況説明	調査ポイント6カ所平均において、大きな改善は見られなかった。今後の取り組みにおいて、さらなる改善を図っていく。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	作滞工事ヘドロ除去中の悪臭や、重機の騒音等が発生する。騒音を押さえることで了解を得た。作滞箇所について、最もヘドロ状となっている箇所を設定することで、効果の検証を図った。 住民等との事前調整による測量設計の遅れから、工事開始が遅れ野鳥飛来期間となり、環境省との協議の結果当該期間には工事ができないことから、繰越事業となった。	水質、底質改善については今後もさらなる検証が必要。 住民説明会等を開催し、事前調整をスムーズに行い、野鳥飛来期間と重複する工事のないよう事業執行に努める必要がある。
今後の取り組み方針		
今後は、野鳥飛来期間との重複する工事実施がないように、進捗を図り事業を実施し、市民や観光客の利用拡大を図る。 水質、底質改善について、調査、検証に取り組む。		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>46,763</td><td>46,763</td><td>37,410</td><td>9,353</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	46,763	46,763	37,410	9,353	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
46,763	46,763	37,410	9,353	0										
宮古島市 46,763千円 委託料 7,745千円 有限会社 地建 460 千円 岩礁破碎及び鳥獣保護区 図面作成業務 有限会社 地建 481 千円 実施設計資料作成業務委託 有限会社マツノ測建 6,804 千円 調査測量設計委託業務 工事請負費 38,340千円 有限会社 立真工業 38,340千円 環境総合整備工事 事務費 678千円 旅費・報償費														
資金の流 れ、費 用・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○選定方法は、全て宮古島市建設工事等入札事務処理要領と宮古島市契約規則により実施しており、妥当であったと考える。 ○不用額は、予算の2%以内であり適正な規模であった。 ○費用使途については、支出等に関する書類により確認、適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	宮古島市						
平成26年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑥	スポーツ観光交流拠点整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ア	
担当部課名	企画政策部振興開発プロジェクト局	事業実施(予定)年度	平成24～28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	国際的な沖縄観光ブランドの確立 Ⅲ-1-(1)	
事業内容	年間を通して、軽スポーツが楽しめ、地域の伝統文化に親しむことができる全天候型のスポーツ・伝統文化交流拠点施設を整備する。						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	26年度(繰越)
	予算の状況	(a) 当初予算額	33,375	-	30,000	595,000	-
		(b) 予算現額	33,375	-	62,360	753,650	-
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	32,360	158,650	0
		(d) 繰越額	-	33,375	-	-	571,541
		A. 計 (b+d)	33,375	33,375	62,360	753,650	571,541
	B. 執行済額		0	33,375	62,360	182,109	571,533
	うち交付金充当額		0	26,700	49,888	145,687	457,226
	次年度繰越額		33,375	0	0	571,541	0
	執行率 (%) (B/A)		0.0%	100.0%	100.0%	24.2%	100.0%
予算の状況の説明		用地買収の交渉に伴い発生した地権者相続手続きに日数を要したこと、一部の地権者と用地買収価格の面で折り合いがつかず、不測の日数を要した結果、工事発注が遅れ委託業務及び工事スケジュールに遅れが生じることとなり、平成26年度内の完了が困難な状況となったため、次年度に繰越した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	用地4筆・面積37,500㎡の買収及び所有権移転手続き	目標	(調査・設計委託)	(実施設計)	(用地買収及び所有権移転)	()	
		実績	調査・設計委託	実施設計	用地買収及び所有権移転		
	建築確認手続き、開発行為申請、林地開発申請、土壌汚染防止法事業行為通知等手続き	目標	(調査・設計委託)	(実施設計)	(各種法令申請手続)	()	
		実績	調査・設計委託	実施設計	各種法令申請手続		
	敷地造成工事及び進入路工事の実施	目標	(調査・設計委託)	(実施設計)	(敷地造成と進入路工事の実施)	()	
		実績	調査・設計委託	実施設計	敷地造成と進入路工事の実施		
達成状況説明	用地買収及び所有権移転手続き、建築確認手続き、開発行為申請等の法規手続きについては、年度内に活動目標を達成した。しかし、用地買収の交渉に発生した地権者相続手続きに日数を要したこと、一部の地権者と用地買収価格の面で折り合いがつかず、不測の日数を要した結果、敷地造成と進入路工事の発注及び工事スケジュールに遅れが生じ、工事と現場技術委託業務は繰り越しにて完了した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(24年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(28年度)
	用地所有権移転登記	目標	(基本計画策定)	(調査・設計業務)	(実施設計)	(所有権移転登記)	(施設整備完了)
		実績		調査・設計業務	実施設計	所有権移転登記	
	実施設計に基づく建築確認、開発行為等必須法規手続きの完了	目標	(基本計画策定)	(調査・設計業務)	(実施設計)	(建築確認申請、法規手続)	(施設整備完了)
		実績		調査・設計業務	実施設計	建築確認申請、法規手続き	
	敷地造成及び進入路工事の完了	目標	(基本計画策定)	(調査・設計業務)	(実施設計)	(敷地造成と進入路工事の完了)	(施設整備完了)
		実績		調査・設計業務	実施設計	敷地造成と進入路工事の完了	
	進捗状況説明	敷地造成と進入路工事を完了したことで、施設建設工事に着手できるようになった。今後は、平成28年度の完了を目標に施設建設工事を進め、付随する委託業務と共に工期内の完了を目指す。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・用地買収に伴う農振除外申請及び農地転用申請について 地目が畑(農地)であった用地に関しては、工事着手前に農振除外申請及び農地転用申請が必要であるため、用地売買契約とは別に耕作者の同意(押印)が必要である。また、申請から許可までの期間も考慮しなければならないので、対象用地については、農振除外地域で農地であるのかを事前に関係機関と確認・協議を進める必要がある。	今回の用地買収についての農振除外及び農地転用の申請・許可については、用地売買契約時に所有者及び耕作者の同意(押印)を得ていたため、申請をスムーズに行えたと考えている。 改善余地としては、農振除外(市農政課)と農地転用(市農業委員会)の申請受付窓口が異なるため、両者の見解を統一するため、合同の打合せを行うとともにスムーズに業務を執行できると考えられる。
今後の取り組み方針		
農振除外申請及び農地転用申請に限らず、事業を円滑に進めるために必要な各種申請については、事前に関係機関に相談・協議を進めておくことで、スムーズに事業執行を行うことができるようにする。特に工事着手前の申請については、工事工程に影響を及ぼすので注意する。(沖縄県赤土等流出防止条例、土壤汚染対策法、建設リサイクル法など) また、引き続き施設整備後の共用開始準備や運営実施体制づくりに関係部署と連携して準備を進めていく。		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
宮古島市 753,642千円	委託料 31,593千円	(社)沖縄県公共 嘱託登記土地家 屋調査士協会 7,765千円 119千円 106千円	スポーツ観光交流拠点施設用 地分筆測量委託業務 スポーツ観光交流拠点施設用 地分筆測量委託業務(その2) スポーツ観光交流拠点施設用 地分筆登記申請委託業務	<table><tr><td>総事業費</td><td>交付対象 事業費</td><td>交付金 充当額</td><td>市町村 負担金</td><td>交付対象 外経費</td></tr><tr><td>753,642</td><td>753,642</td><td>602,913</td><td>150,729</td><td>0</td></tr></table>	総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費	753,642	753,642	602,913	150,729	0
		総事業費	交付対象 事業費		交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費							
		753,642	753,642		602,913	150,729	0							
	(有)地建 5,184千円 2,754千円 6,458千円	スポーツ観光交流拠点施設交 差点詳細設計委託業務 スポーツ観光交流拠点整備事 業現場技術業務 平成27年度スポーツ観光交流 拠点整備事業現場技術業務	(株)国建・岳設計 工房設計共同企 業体 2,403千円	(宮古島市スポーツ観光交流 拠点施設申請等手続き業務 株式会社 国建 岳設計工房)										
	(株)日建コンサル タント 6,804千円	スポーツ観光交流拠点施設建 設工事不発弾等事前探査委託 業務												
	工事請負費 652,300千円	(有)嘉数建設 46,318千円	スポーツ観光交流拠点 施設進入路整備工事	(株)翔邦建設工業 375千円	スポーツ観光交流拠点施 設給水管切替工事									
		(株)松川建設・ (株)奥隆建設JV 134,352千円	スポーツ観光交流拠点 施設土木工事(1工区) 株式会社 松川建設 株式会社 奥隆建設	(有)松宮開発 85,255千円	スポーツ観光交流拠点施 設土木工事(2工区)									
		(株)尚輪興建・ (株)南西建設・大 成土建(株)JV 185,013千円	スポーツ観光交流拠点施 設建設工事(建築1工区) 株式会社 尚輪興建 株式会社 南西建設 大成土建 株式会社	(株)大米建設・(株) 下崎建設・(株)奥 浜組JV 200,987千円	スポーツ観光交流拠点施 設建設工事(建築2工区) 株式会社 大米建設 株式会社 下崎建設 株式会社 奥浜組									
	公有財産 購入費 69,749千円	宮古島市平良字 松原財産区 30,150千円	個人(8名) 9,449千円	スポーツ観光交流 拠点施設用地購入										
		宮古島市平良字 久貝財産区 30,150千円												
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価・ 費目・	評価	点 検 項 目		評価に関する説明										
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○指名競争入札以外の業者選定については、宮古島市契約規則及び地方自治法第167条の2を遵守し、適正な随意契約を行っている。 ○予算規模については、不用額がなく、適正規模であったと考えている。 ○費目・行途については、事業実施に際し必要なのか等、支出に関する書類により確認を行い適正であった。										
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	宮古島市						
平成26年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-③	大嶽城趾公園環境整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(6)-イ	
担当部課名	建設部 都市計画課	事業実施(予定)年度	平成24～26年度		沖縄振興基本方針該当箇所	花と緑あふれる県土の形成	
事業内容	本市で最も高台に位置する大嶽城趾公園内に花木を植栽し、観光公園としての整備を図る。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	26年度(繰越)
		(a)当初予算額	4,000	—	10,000	89,774	—
		(b)予算現額	4,000	—	7,649	137,787	—
		(c)増減額(b-a)	0	0	▲2,351	48,013	0
		(d)繰越額	—	4,000	0	0	78,331
	A. 計(b+d)	4,000	4,000	7,649	137,787	78,331	
		B. 執行済額	0	3,307	7,649	59,456	75,824
		うち交付金充当額	0	2,646	6,119	47,565	60,659
		次年度繰越額	4,000	0	0	78,331	0
	執行率(%) (B/A)	0.0%	82.7%	100.0%	43.2%	96.8%	
予算の状況の説明	・当初計画では実施設計に基づき、環境整備と植栽整備を同時並行で工事を進める予定だったが、全体の工種、工程を考慮するとトイレ建設及びそれに伴う給水設備を優先に整備する必要があったため、進入路整備及び植栽整備については次年度への繰越となった。 ・予算については、工種工程を再検討し、整備後の花卉の環境管理に係る給水設備及び、造成・整地を先行施工しておくことが事業の進捗上効率的と判断したため、増額実施となったが、事業家を高める取り組みであり、予算規模は適正であった。						
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	観光地の形成(観光公園の整備)公園内の環境整備、花木等植栽整備の工事実施。	目 標	(調査検討)	(実施設計・植栽整備)	(環境及び植栽整備)	()	
		実 績	調査検討	実施設計	環境及び植栽整備		
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	・整備計画全体の工種、工程を検討した結果、トイレ建設及びそれに伴う給水施設の設備を優先したため、繰越事業となったが整備計画の内容は適切に実施し、完了した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	観光地の形成(観光公園の整備)公園内の環境整備、花木等植栽整備の工事実施。	目 標	()	(実施設計)	(実施設計・植栽整備)	(環境・植栽整備の完了)	()
		実 績		調査設計	実施設計	環境・植栽整備の完了	
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
進捗状況説明	平成26年度は管理進入道路造成とトイレ建設、駐車場整備を予定していたが、整備全体の工種、工程を検討した結果トイレ建設及び給水設備を優先して整備を行った上で、敷地造成、管理進入道路整備、樹木の移植を同時に整備することが最善と判断し、翌年に繰り越して整備を行った。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・公園施設と景観面における観光公園としてのあり方、城趾公園として歴史、固有性に係る魅力的な発信、および貴重な天然記念物の自然樹林に係る保存形成等に留意し、敷地造成及び進入路の整備を行った。	「花の名所」にふさわしい集計植栽の整備をし、石畳を文化財としての存在感を際立たせ、城趾公園としての歴史的イメージを感じさせ、天然記念物の自然樹林の保全を行う。
今後の取り組み方針		
「花の名所」にふさわしい集計植栽の整備、バリアフリー対応の園路およびトイレ、駐車場の整備、歴史的イメージを感じさせながら史跡へと導く遊歩道の整備、天然記念物の自然樹林及び樹林内園路の現況保全または移植保全等に留意し、平成27年度に事業は完了した。 今後の取り組みとして、市民のボランティア参加の促進や植物管理技術者等を確保するなど管理体制を構築し、植物管理の充実を図ることで継続的な公園緑化を維持していく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
宮古島市 135,280千円 委託料 7,028千円 宮古ボーリング調査 216千円 新城設計室 450千円 (株)八島建設コンサルタント 6,362千円 大嶽城趾公園地質調査にかかる委託業務 トイレ建設工事に伴う監理委託業務 大嶽城址公園環境整備工事に伴う現場技術業務 工事請負費 122,787千円 (有)久吉組 107,475千円 (有)宮国組 15,312千円 大嶽城趾公園環境整備工事 大嶽城趾公園トイレ建設工事 公有財産購入費 5,465千円 個人(1名) 5,465千円 大嶽城趾公園整備事業に伴う公有財産購入費				
総事業費		交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金
135,280		135,280	108,224	27,056
				交付対象外経費
				0
資金の流 れ、使 途の 点検 ・評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は全て宮古島市建設工事等入札事務処理要領に基づき実施しており妥当であると考える。 ○事業年度に見合った予算規模で適正であったと考える。 ○費用、使途については、事業目的の観点から必要かどうかを検討し、額の確定時において確認しており適正であった。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。		
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	宮古島市							
平成26年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	3-⑤	イムギヤーマリンガーデン遊歩道改修工事			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ		
担当部課名	農林水産部 農政課	事業実施(予定)年度	平成26年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備			
事業内容	宮古島の美しい海岸線や入江を利用した海浜公園で、島内でも有数の観光地であり、遊歩道や展望台からは美しい海を見ることができ散策にも最適である。しかしながら、平成5年の完成以来約20年が経過し、遊歩道や手すり等の経年劣化が著しいため、観光客が安心して散策出来るよう、遊歩道及び周辺設備の改修工事等を行う。							
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()							
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	26年度(繰越)	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	50,000	0				
		(b)予算現額	185,145	0				
		(c)増減額(b-a)	135,145	-				
		(d)繰越額	0	118,817				
		A.計(b+d)	185,145	118,817				
	B.執行済額		66,328	17,234				
	うち交付金充当額		53,062	13,787				
	次年度繰越額		118,817	-				
	執行率(%) (B/A)		35.8%	14.5%				
予算の状況の説明		当初、3年度計画を想定しており、26年度は1工区のみの実施を予定していたが、観光客が多く訪れる場所であり、事業実施に伴う立ち入り禁止期間短縮を図り、工期を1年へ短縮し3工区に分けて実施することとし、予算の増額(135,145千円)を行った。 事業実施に当たり保安林解除の必要が出てきたため、調整に不測の日数を要し予算を繰り越すこととなった。 繰越事業実施期間に台風に見舞われ、整備途中であった2工区が大きな被害を被ったため、2工区分については26年度繰越事業として取り下げたため低執行率となった。						
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)			達成状況				
				26年度	25年度	26年度	27年度	
	遊歩道等改修工事の実施	目標	(遊歩道改修工事実施)	()	()	()		
		実績	遊歩道改修工事実施					
		目標	()	()	()	()		
		実績						
達成状況説明	観光客が安心して散策出来るよう、計画を促進し単年度計画へと変更した。その後、繰越事業となり、第2工区が台風被害を受けたため、対象外とし、遊歩道及び周辺設備の改修工事第1工区、第3工区を実施した。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)			基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	遊歩道等改修工事の完了	目標	()	(遊歩道改修工事完了)	()	()	()	
		実績		遊歩道改修工事(1工区・3工区)完了				
		目標	()	()	()	()	()	
		実績						
	進捗状況説明	当初3年計画であった遊歩道改修工事を1年計画とし、3工区に分け実施した。第1工区、第3工区については、遊歩道や手すり等の改修が完了した。第2工区については、繰越事業実施中に台風被害を受けたため、対象外とした。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	計画当初は年度別3年計画としており、26年度事業としては1工区のみ計画であった。観光客が多く訪れる場所であることから、計画全体の工期短縮を図り、3工区を単年度で実施する計画に変更を行った。 その後、保安林解除の必要が出てきたため、調整の結果、繰越事業となった。 繰越事業実施中に台風に見舞われ第2工区が被害を受けたため、交付対象外経費とした。	繰越事業となってしまったため、今後は第3者との調整を前もって十分に行う必要がある。 また、繰越事業実施中に台風被害を受けたことで低執行率となってしまったため、今後は執行率向上に向け、実施時期を十分に考慮し、安全な事業実施に努める必要がある。 遊歩道改修工事(2工区)を整備し、更に観光客が安心して散策が出来るようにしたい。
今後の取り組み方針		
事業実施前に保安林解除の必要性の確認等、事前調整の必要な事項の洗い出しを行う。 第2工区について、台風に見舞われ被害を被ったため、台風にも耐えられるように実施する必要がある。 現在、遊歩道第1工区、第3工区が完成しているが、第2工区についても整備を行い、観光客がさらに安心して散策ができるようにする。		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>83,562</td><td>83,562</td><td>66,849</td><td>16,713</td><td></td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	83,562	83,562	66,849	16,713	
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
83,562	83,562	66,849	16,713											
宮古島市 83,562千円 工事請負費 46,006千円 勝建設株式会社 46,006千円 イムギャーマリンガーデン遊歩道改修工事(1工区) 工事請負費 37,556千円 みらい建設有限会社 37,556千円 イムギャーマリンガーデン遊歩道改修工事(3工区)														
資金の流 使途の流 点検 評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事の業者選定は指名競争入札により実施しており、妥当であったと考えている。											
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○事業費積算は適正に行っており、予算規模としては適正であった。しかし、第2工区を対象外としたことにより低執行率となってしまった。											
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	宮古島市						
平成26年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-⑥		モズク加工施設機能強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-イ	
担当部署名	農林水産部 水産課		事業実施(予定)年度	平成26年度	沖縄振興基本方針該当箇所	流通・販売・加工対策の強化	
事業内容	本市水産業の主要品目である養殖モズクのさらなる振興を図るため、宮古島漁協が行うモズク加工施設の機能強化に向けた設備の整備・導入に対し、支援を行う。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	26年度(繰越)	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a)当初予算額	13,500	—			
		(b)予算現額	13,500	—			
		(c)増減額(b-a)	0	—			
		(d)繰越額	—	10,457			
		A.計(b+d)	13,500	10,457			
	B.執行済額		3,043	8,981			
	うち交付金充当額		2,434	7,185			
	次年度繰越額		10,457	—			
	執行率(%) (B/A)		22.5%	85.9%			
予算の状況の説明		補助対象事業者は、平成26年度において電動フォークリフト2台、モズク搬送用ポンプ3台を導入する予定であったが、そのうち搬送用ポンプについては、産業用モータに対するトップランナー基準(省エネ法で定められた機器のエネルギー消費効率基準)の適用に伴い在庫がない状況が続いたため、年度内の納品が困難となった。そのため、事業の年度内における完了が見込めなくなったことから次年度へ10,458千円繰り越した。そのため、事業の年度内に不用額1,476千円は補助対象事業者が行った入札残によるものであり予算は適正に執行された。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	モズク搬送用ポンプの整備	目標	(3台)	()	()	()	
		実績	3台				
	電動フォークリフトの導入	目標	(2台)	()	()	()	
		実績	2台				
達成状況説明	平成27年2月に電動フォークリフトを2台導入、平成27年4月にモズク搬送用ポンプを3台整備し、計画どおり事業が完了した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	加工場の機能強化によるモズク処理能力の向上	目標	(375kg/h)	(462kg/h)	()	()	()
		実績		(545kg/h)			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	○モズク搬送ポンプの機能向上により、搬送・搬出工程時に生じていたモズクの切れが改善され、また、作業時間が短縮されたことにより鮮度向上につなげることができた。 ○運搬用フォークリフトをディーゼルタイプから電動タイプに切り替えたことで、排気熱によるモズクへの悪影響が改善され、品質向上につなげることができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	○補助対象事業者が従来行っていたモズク加工の工程においては、 ①ポンプの仕様の影響からか搬送・搬出工程の際にモズクが切れ、長さが短くなってしまう ②ポンプの能力が低いことから搬送・搬出に多大な時間を要し、作業時間や漁業者の搬入待機時間が増加し、モズクの鮮度が劣化してしまう ③運搬用フォークリフトがディーゼルタイプであることから、その排気熱によりモズクが傷む、排気の臭いがモズクに移ってしまう といった問題があったため、そういった劣化の原因を改善しモズクの品質向上を図るため、モズクの搬送・搬出に用いるポンプの整備、ディーゼルタイプから電動タイプのフォークリフトへの切替といった加工施設の機能強化に対する補助を行った。 ○本事業の実施により搬送ポンプとフォークリフトの機能が強化されたことで従前の問題が改善され、作業時間の短縮とともにモズクの品質向上につながった。	○導入した設備については、現状の使用方法に満足することなく、より効率的な利活用方法を検討することで、宮古島産モズクの更なる品質向上につなげていく必要がある。 ○導入した設備の管理については、市においても定期的に稼働状況や保守状況を確認し、最大限使用していくことができるよう補助対象事業者に対して働きかけていく必要がある。
今後の取り組み方針		
○導入した設備について効率的・効果的な利活用方法の検討を行い、宮古島産モズクの更なる品質向上に取り組んで行く。 ○設備導入効果についての検証を生産者・漁協(補助対象事業者)・2次加工業者との間で行い、宮古島産モズクのブランド化の推進を図っていく。		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>14,429</td><td>12,024</td><td>9,619</td><td>2,405</td><td>2,405</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	14,429	12,024	9,619	2,405	2,405
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
14,429	12,024	9,619	2,405	2,405										
宮古島市 12,024千円 補助金 12,024千円 宮古島漁業協同組合 12,024千円 受益者負担分 (交付対象外経費) 2,405千円 モズク加工施設の機能強化に向けた設備の整備、導入に対する補助														
資金の 使途の 流れ、 点検 評価、 費目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助対象事業者である漁協は水産業協同組合法に基づき私的独占の禁止が謳われた組織であることから、支出先として妥当であると考ええる。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額は事業費の約15%であるが、補助対象事業者が実施した入札残によるものであり、適正な規模であったと考える。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○要綱に基づき算定された額を補助しており、補助対象事業者においても一定の費用を負担しているため、負担関係としては妥当である。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については遂行状況や実績報告でその都度確認を行っており、精算時の検査により目的に即し必要なものであったと判断した。											